

主催：日本地理学会 災害対応委員会

『災害認知社会』の構築に向けた地理の役割

日時：2009 年 3 月 28 日（土） 13:00 ～ 16:30

場所：帝京大学 八王子キャンパス（八王子市大塚 359）
日本地理学会 春季学術大会 第 8 会場（11 号館 1181 教室）

どなたでもご参加いただけます



オーガナイザー：平井幸弘、宇根 寛、青木賢人、小口千明

【プログラム】

趣旨説明 平井幸弘（駒澤大学）

基調講演 鈴木隆介（中央大学名誉教授） 「防災事業に関する地理学者の責務」

村山良之（山形大学）

「防災教育における地形・地理」

小口千明（埼玉大学）

「埼玉大学における防災啓蒙活動の現状と課題」

大西宏治*（富山大学）・廣内大助（信州大学）

「洪水ハザードマップを用いた災害図上訓練（DIG）の取り組み」

福留邦洋（新潟大学）

「近年の地震災害における地元大学の取り組み

—新潟県中越地震、新潟県中越沖地震における新潟大学の事例—」

青木賢人（金沢大学）

「『白山火山勉強会』と『金沢大学 2007 年能登半島地震学術調査部会』

—金沢大学における自然災害対応体制の構築—」

コメント：田村俊和（立正大学）／ 鈴木康弘（名古屋大学）

総合討論

【お問い合わせ】

日本地理学会事務局

TEL 03-3815-1912

FAX: 03-3815-1672

e-mail: office@ajg.or.jp

国内各地で地震や豪雨災害が頻発する近年、その対応として今求められているのは、各地域における住民が、例えばハザードマップの認識・活用などによって、適正な防災意識を自らが高め、それらをもとにした「災害認知社会」を築くことである。

今回のシンポジウムでは、鈴木隆介会員の基調講演、および各地の大学での災害研究や防災教育・啓蒙活動の実践報告をもとに、「災害認知社会」構築にむけて地理・地理学が果たす役割や課題について討論したい。